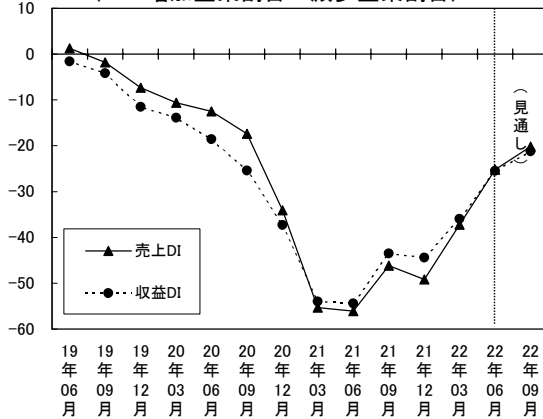


# 景況感大きく改善、未だデフレへの警戒感は解けず！

## 【売上受注・収益】

(DI=増加企業割合-減少企業割合)



## ◆◆◆ 販売価格・数量 ◆◆◆

販売価格DIはマイナス20.9(前回比+4.9ポイント)、販売数量DIはマイナス21.8(前回比+8.8ポイント)となり、販売価格DI・販売数量DIともに上昇しています。

業種別では、製造業、卸売業、小売業、建設業が販売価格・販売数量ともに上昇し、反対に飲食業、サービス業ではわずかながら悪化しております。

平成22年7-9月期は、販売価格DIが4.8ポイント、販売数量DIが4.0ポイント改善する見通しです。

業種別では、すべての業種で改善が見込まれていますが、今期に比較して販売価格・数量DIともに比較的小幅な改善の見込みとなっています。

## ◆◆◆ 売上受注・収益コメント ◆◆◆

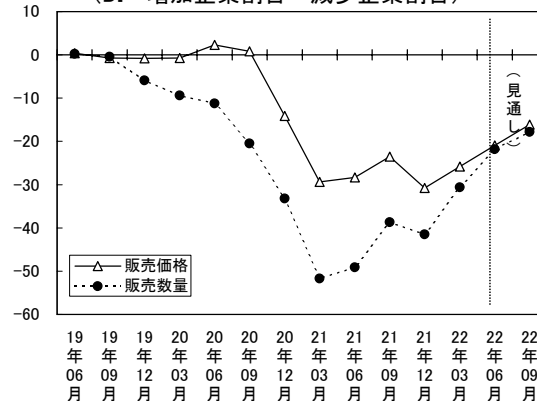
売上DIはマイナス25.2(前回比+12.0ポイント)、収益DIはマイナス25.5(前回比+10.5ポイント)となり、平成22年4-6月期は平成22年1-3月期に比較して大きく上向き、回復しました。製造業においては、5期連続の改善となりました。

業種別では、製造業、不動産業が売上・収益DIともに牽引しています。しかし、運輸業、飲食業、建設業、サービス業は前回比プラスで推移したものの、小幅な上昇に止まりました。

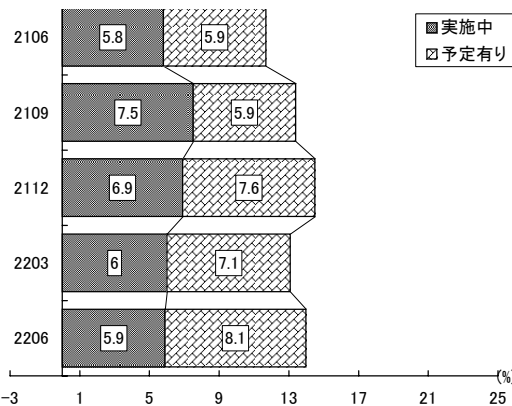
また、平成22年7-9月期は今期よりも上向くと予想されました。業種別では、製造業では売上・収益DIの改善傾向に一服感があるものの、卸売業、小売業、飲食業では緩やかな回復が、建設業、運輸業では大きな回復が予想されます。しかし、サービス業、不動産業では下降すると予想しています。

## 【販売価格・数量】

(DI=増加企業割合-減少企業割合)



## 【設備投資】



## ◆◆◆ 設備投資 ◆◆◆

「実施中」は5.9%(前回比-0.1ポイント)、「予定有り」は8.1%(前回比+1.0ポイント)となりました。

前回時に比較して、「実施中」はほとんど変わらず、「予定有り」はやや増加しています。売上DI、収益DIは上昇傾向にありますが、中小企業の設備投資意欲は依然として冷え込んだ状態にあります。

設備投資計画予定有りの内容は、機械等の新設・増設から事務所、店舗、工場等の新設・増設・保守・更新など様々ですが、いずれも小規模なものが中心です。また設備投資における資金調達方法は、大半を自己資金で対応しています。

## 【経営上の問題点】(複数回答)

## ◆◆◆ 経営上の問題点 ◆◆◆

第一位は「売上の停滞・減少」で66.4%、第二位は「価格競争の進展」が45.3%、第三位は「販売・受注単価の低下」が38.3%となりました。

平成22年4-6月期に売上・収益DIともに改善傾向にあり、中小企業の景況感も改善はされていますが、未だ価格競争にともなうデフレの進行は止まらず、政府による有効なデフレ対策が示されない中、国内需要の停滞もあって、中小企業の景況感には依然として不透明感があります。

業績が安定してきた企業はあるものの、サービス業や不動産業など依然として厳しい状態が続く業種もあります。

中小企業の景況感は、明らかに改善傾向にあります。しかしデフレの進行という視点からは、依然として価格競争の進展にともなう売上の停滞・減少が予想される中、景況の先行きに慎重な姿勢がうかがえます。(中小企業診断士：平山)

